

43

佐久間洋行旧蔵書について

清水 信子, 町 泉寿郎

二松学舎大学文学部, 北里大学東洋医学総合研究所

【佐久間峻斎】佐久間洋行(1916-2003, 字儀卿, 別号峻斎, 堂号向陽堂)は, 千葉・茂原の医師で, 臨床のかたわら古医書の研究, またその収集につとめ, 中川修亭『傷寒全論』, 尾台榕堂『類聚方広義』などを復刊した人物である。佐久間は医家の長子として生まれ, 祖父閑荘(寛蔵)が二松学舎の祖三島中洲と旧知の縁であったことから, 1931年, 二松学舎専門学校(現・二松学舎大学)に入学し漢文を学ぶが, 医業を継ぐため退学して日本医学専門学校(日本医専, 現・日本医科大学)に入学し, 丸山千里, 金子丑之助らに学んだ。卒業後, 奥田謙蔵を師とし, 1946年頃, 当時の千葉大学東洋医学研究室の武藤留吉, 和田正系を中心に発足し, 藤平健, 小倉重成, 石野信安らが参加した奥門会の講筵に列し, 『傷寒論』などを学んだ。一方, 漢詩文も続け, 山田準(済斎, 二松学舎専門学校初代校長), 塩谷温(節山), 今関天彭, 鈴木虎雄(豹軒)らに師事し, 漢詩人として多くの詩作を残し, それらは没後次子保行氏により『峻斎詩鈔』(1991刊)としてまとめられている。

【旧蔵書の概要】旧蔵書には「佐久間/医院」「峻斎/秘笈」「佐久間/氏家蔵」(以上, 朱文正方印), 「佐久間」(朱文長方印)などの蔵書印が捺され, 佐久間の収集になるもののほか, 先代以前からの蔵書も含まれるとみられる。それらは坊間に通行し, たとえば研医会図書館に所蔵される曲直瀬道三旧蔵の『玉機微義』など貴重書も散見する。二松学舎大学附属図書館に所蔵される旧蔵書は約450点とまとまったもので, 医書類が315点, そのほか漢学, 漢詩文の類である。医書は『素問』『靈枢』など医経, 本草, 経脈, 傷寒・金匱, 『医方大成論』などの中国古典とその邦人注釈書類, また邦人医家による各種医方・医論, 薬方・処方類など漢方書から『解体新書』(1774刊, 巻四のみ)『全体新論』など蘭方・洋方書に及び, 産科・婦人科の類が最も多く約70点, 次いで傷寒・金匱関係と処方書類がそれぞれ約60点。漢学類では漢籍は経書, 詩文の類が中心で明版など貴重なものもみえる。国書は主に日本人による詩文集である。これらのうち今回医書について紹介する。

【特徴・特記資料】全体的な特徴のひとつに重複本がある。たとえば産科書では賀川玄悦(子玄)『子玄子産論』(1765刊)は10点, 概書を養子玄迪(有斎)が補遺した『産論翼』(1775刊)は5点の副本があり, また吉益東洞の『類聚方』には明和元年(1764)版が4点, 寛政十一年(1799)版が2点あるが, それは教本として佐久間, あるいは先代が講義をするための副本だったとも考えられる。またひとつに糸の外された線装本が多く見られ, これらは古典医書復刊のためのものであったとみられる。

産科は賀川流が中心で, 前掲『子玄子産論』『産論翼』のほか聞書類が散見し, 賀川家関係では『賀川玄悦老医口授』『産科手術省斎先生口授』『産科紀聞』など, 賀川流門人では奥劣斎の『産科啓秘録』『回生鉤胞秘訣』などがあるが, これらは写本で伝わるもので, その諸本には大同小異あり, 賀川流産科術の詳細を知る上で詳査すべきものである。

傷寒関係で他にあまり所蔵のないものには, 刊本に堀川舟庵が安政三年(1856)に刊行した『(翻刻宋版)傷寒論』(1856刊), 写本に浅田宗伯の『傷寒論識』『傷寒雜病辨証』(1851自序), 古矢知白(生没年不詳)『傷寒論正文復聖解』(写本), 川瀬元寛(生没年不詳)『傷寒論自解』などがある。佐久間は特に浅田宗伯に関心を持ち, 著書など関係資料の収集にも意を注ぎ, 『勿誤藥室方函』(1880刊)『暴瀉須知』(1877刊)などがあるほか, 自筆の草稿も蔵していたが, その電子複製版が残るのみである。

処方集の類は, 古方派・吉益流が中心で, 前掲『類聚方』のほか, 雉間煥『類聚方集覽』(1803序刊), また『類聚方序解』, 池口達徳『類聚方掌故』(1846序)など伝本のまねな写本がある。